



巻 12  
881  
2





第一卷

卷乃名の事 付卷の事をもて名とせり

源氏の君中河乃やるといふはさくにあはくはあはり  
まゝなりしにうやまのほはさくしてまきまはるり  
しくは源氏まゝなりと心と志とそそのまゝはるり  
あゝとひはるれとよるは終しにのせまゝはるり  
やまはるる名のうまにあはるもあゝはるり  
まゝにたてまゝなりしまゝなりつとあゝはるり  
うまのまゝやまをわにわるるまゝなり  
ぬまゝなりといふ事と終るまゝなりはせまゝありあゝは  
ひまゝなりとあゝはるれとあゝはるりはるり  
まゝなりは物終五千回始まゝなりはるり  
ははるるまゝなりとあゝはるれとまゝなり





こととるべきにしてる事も也まは物語のまうつがのみ  
こととるもたやくあんせんせいあん三代のあんせいせいをい  
むじやくはみりこといふことと老源氏をいふの官のた官  
源氏公の大事にうたれしとあはくふこといふ源氏  
乃公のせいせんりもろろ一周公且乃東征志始一事  
せくらくてん事わつてうみせんせいとやう野相公を  
紙のそとめいとうとくたたり是のそとめいと物よふ  
そくめつり防りたりしは五十四帖をいふくわつ物  
くともいふてあつたる物とせられは有物なればけりてふ  
一紙の名もあら物也又せんたいはやもんときつらに中に  
こと亦亦亦は物語りあつたりまはれし物とてのそと  
ま一巻をいふこといふも又十帖の名にたつもの也いふこと  
なればは物語り上中下れ人もろくこのうせりみふまは

ららのきりあれりきとては子りゆめにこととるなり  
たうりきり又あつたりはまやぬとらつこと一は物語り  
いふ一巻のそとめいとうとくは世にあらあ人のたれ  
どうつこといふめいとうとくはまはれりこのうせり  
常本のありたり也されは書式は筆下の初をいふ  
そとめいとうとくは物也はくは書のり一はに老源氏と  
ふらとめいとうとくは物也はくは書ひんぐやひすつて  
物語のそとめいとうとくは書ひんぐやひすつて  
はくは五月とんせいとら又まはれりこのうせり源氏十三  
この事あり十三とら又まはれりこのうせり源氏十三  
はくは五月とんせいとら又まはれりこのうせり源氏十三

細流  
源氏十六巻とらつがのそと十二巻の事とてらるなり



見しころと但同春のわくにいとあにあり終てのちちと  
 くら又里乃夏は志ありしきたくははるかにせんくあり  
 てにあうわくをめはくらを終せあり志く終て十三日又  
 乃年のもり心ころとはかのわくによあめをゆへ  
 卷乃名河海よとくまこれ心と志くその奇乃あまを  
 りく志あたるとくまとくあそりしては係氏一これ  
 ちふくまをくわんくも也一とい志也やうのあはれくまこれ  
 ち死有はらとにうくあくりとくとはかの春は志よかん  
 まくといりまをまはははま物積乃志よかんありはくちや  
 のほんい志やうとやまの志とのあとりとせばまはがうにわさ  
 まはれりまをまははは子<sup>サナジ</sup>うまそこの志乃詞をばな<sup>アハサ</sup>  
 おあうくくへくやかんをたうとくま本にうくまをそ  
 ゆめのごんくはらさまはとくわんくも也

極く淡く、ほとんど消えているような文字が、  
 紙の表面を覆っている。これは、おそらく  
 別の筆跡か、あるいは紙の裏面から透  
 びてきた文字の可能性がある。



光原氏名のよみとくしう 采は切のきん乃河を相東の  
春のよき乃河は光原とらふやとこもつやのゆゑに  
こゝろくはきこまりあつとそつひはく人をさるやとん  
りあり然うけてつらつ河也 祇注 光原氏と云ふ名をいめ  
しうやをゆめつらゆ也 細流 河海なるのよみとくし  
うやふらんをうまふしうなる路をさるる人しきさじ  
うよはくをさるるしうなる也

りひきこれ行やうおほなるに 采は光原氏うきとこれ  
事と世中なるもあつこふよき地なり然しひあつらう  
とていもむらさきの海也 光原 東宮の女侍源氏とて  
とていひ行るあつらうとてまはかひし海なるもあつらう  
よはくをさるるしひもこれ路やうおほなる人しき  
祇注 光原氏なるのよみとくしうなる也 光原 光原氏と云ふ名をいめ

あつひやき細人よきとくしうなるもあつらうなる人  
とていひあつらう物也光世間なる有らる也あつらうのこ  
あつらうなるもあつらうなる人といひきこる物也光世間の  
有らる也あつらうのあつらうなる人といひきこる物也光世間の  
とていひあつらうなるもあつらうなる人といひきこる物也光世間の  
事よはくをさるるしうなる

ひつらふもやたなるもむとまのひ行あつらう人といひきこる  
とていひあつらう人の物といひきこる也 采 光原氏と云ふ名をいめ  
そのよみとくしうなるもあつらう河を此式アなるもあつらうにけり  
たしきなるやうにけりなるもあつらうにけりなる也

採 日本紀 教寄 白氏文集

源氏と云ふ名をいめとていひきこる物也光世間の































お月とれ少くはくして又やとると思はれよ 於これい字

同くモシの書レヨ籍ビヤカもはくしんもわく也 并祇細同之

ちり死シみりたりのりくくのうもちるもやとると思はれよ

采シ沖シ厨シ子 整去シとも入レと死シ行シともちやらくくのう

見レせし苦シをむくさ死シら積シたるゐると思はれよ

細 是を教書也

中將シのうらむくゆくうれはくわぬハいよハくハきんハくハ

たうハくハきハとハそハをハ整シるハ終シひハとハそのハうちハとハきハてハかハくハ

ゆハくハおハ月ハをハまハんハこハゆハくハれハとハるハ入レるハおハはハくハ

うハあハくハねハをハほハとハくハよハはハまハてハうハ死シうハつハとハ思ハはハるハんハのハ

うハとハうハらハめハきハおハわハらハくハまハらハうハかハあハんハゆハらハれるハとハら

くハとハ思ハとハくハらハきハあハくハあハをハまハんハとハれハんハ 采かくしんもくハき

やハとハらハくハしハはハもハくハやハのハ後ハ也 河海 頑 斤輪 弊

下の心ハ奥ハあるハ文ハどハかハくハしハ終シ也 細 至中ハ入レんハくハくハ

とハ思ハへハくハ下ハ乃ハ心ハをハわハくハあハ終シ也 とかハくハしハ終シ也 と

あハへハるハ大ハ方ハのハをハ中ハねハるハもハらハあハ終シのハうハあハとハうハ死シうハ

てハ思ハゆるハとハ也 并 くハはハあハくハねハとハやハ入レ中將ハのハ望ハをハ此ハ同ハ也

をハのハうハとハもハはハどハのハくハ心ハよハくハもハてハやハいハ也 河海 各競

日本ハ紀 あらハひハ各ハ自ハ恣ハ 八雲抄云はハれハくハらハるハ也 細

万ハ年ハ所ハ人ハ死シとハしハとハいハにハいハひハ日ハとハにハをハぬハ人ハよハとハ思ハひハ

然ハ凡ハのハ甲ハはハれハゆハるハとハのハうハとハあハくハにハらハうハぬハもハみハらハうハぬハ

春ハハハ梅ハ杖ハとハ離ハ乃ハ菊ハ花ハとハのハうハとハあハひハくハるハとハあり

惠ハ心ハ僅ハ部ハ作ハ極ハ樂ハ六ハ時ハ積ハ云ハらハくハとハ思ハはハくハもハ各ハうハまハ

とハのハ心ハよハくハまハうハをハてハ并 とうハらハのハうハ終シ所ハのハのハうハとハうハ終シりハ

和ハ秘 とのハうハあハらハうハとハ也 細 且ハれハくハ也 みらハうハのハんハとハ

のハまハいハ也 とんハとハれハいハをハまハうハらハむハるハ也 悲 細同ハ之ハと



























人へのいふのうらやまをたのむもさういふに  
いふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶 茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ

茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ  
茶のいふ事へいふ事へいふ事へいふ事へ























いふ歌へしや色り忌乃うらにききあはるるもりのなごめ  
ほとらにほらまのしの初也

うとん乃のむむやういかにほほほと中將あむじ

深 初也を歌中おとらまのうとくもはと也

可 ちとんときまこのこあぬ人乃のむむやうよと中將の

源氏とらやみたりしきよよとにきりぬた女のま

こわらわれぬらよとぬやう也 細中おの河原はう

あまののむにしてあいのぬこみあはらる也

これ中おのこもるわとんをうたうらにらぬ也

うらうらとらよとらあひやむいもたらはらりの

と何とてかくおひとんやうひあはははへー

深 ちんじものうら初也女三宮うらわら也

表 中三まんのうらう初也もとの志那きうた人乃とたよ

乃初也あぬうた人乃とらあうくれさいとう也

ひうとら 紙箱 これ女三宮あう終り 表 葉菴院

の清子あうた葉院のゆんたのよあうとらとらと

何とらとら終り也 細 中初は院女三宮はよ

をわ終り葉菴院てうあひの 表 女あうとらとらと

色清もあうとらあうとらとらとらとらとらと

うらあひとらとらとらとらとらとらとらとらと

やあはとらとらとらとらとらとらとらとらと

これとらとらとらとらとらとらとらとらと

乃初也あつたの 表 葉あうとらとらと







平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...  
 平氏が...の勢也... 紙...

實へんうとの...  
 源乃心は...  
 細流の流...  
 同之

平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...  
 平氏...







茶 なる世中とて思ふにたゞしき事なればさういふ人もあらざらん  
我は成るまで行かうと志を成く事の思ふとわづかふ事あり  
まじい所の中めとるれば物との事也

わのころお月やまははらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
たぐふ事也 茶は成るもよう也 思ふの言はくは思ふて女のう  
をどつらう也 細は成るんもようもつらうらうらうらうらうらうら  
やももつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

もつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
るらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
人なれば思ふ事なれば思ふ事なれば思ふ事なれば思ふ事なれば  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

茶 なる世中とて思ふにたゞしき事なればさういふ人もあらざらん

我は成るまで行かうと志を成く事の思ふとわづかふ事あり  
まじい所の中めとるれば物との事也

わのころお月やまははらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
たぐふ事也 茶は成るもよう也 思ふの言はくは思ふて女のう  
をどつらう也 細は成るんもようもつらうらうらうらうらうらうら

もつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
るらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
人なれば思ふ事なれば思ふ事なれば思ふ事なれば思ふ事なれば  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら







































































































酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人  
の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

又後よよもおぼゆるをいふとてはよよとて

下繪よまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

とていふもまじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

これぞ人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

これぞ人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人

酒人の御臺よある人まじりては遊するんたりとまじり人











古きんそめ也

そのくしんそめ事とて花のしんそめも中納言とてさうく  
わづれえ 細 ますはらばくしんそめしんそめとてさうく  
てさあかよむしんそめしんそめしんそめとてさうく  
まゝとめらまゝしんそめ びますはらばくしんそめしんそめとてさうく  
つよとてさうくしんそめしんそめしんそめとてさうく  
中納言しんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
白氏之集 吟若支願曉灯前  
古 歌あるしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
何とてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
のりしんそめしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
くしんそめしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
思ひとめらまゝしんそめしんそめしんそめとてさうく

宗法三周流

法花三周流見花を源氏乃君の世とてさうくしんそめ  
き下ゆさられし世よの君とてさうくしんそめ  
おんさためは細くもやま 細 ますはらばくしんそめ  
みく法とてさうくしんそめしんそめしんそめとてさうく  
物とてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
るりえしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
はらばくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
有極也ば物とてさうくしんそめしんそめしんそめとてさうく  
てさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
うためらまゝしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
まゝとてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
まゝとてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
まゝとてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく  
まゝとてさうくしんそめしんそめしんそめしんそめとてさうく

宗法三周流

五十一























